

TP-Link Omada (オマダ)

Wi-Fi 6や10Gを低価格で導入 無料SDNでネットワークの管理も

中堅中小企業にとって、DX(デジタルトランスフォーメーション)に必要なのは最先端の技術よりもコストパフォーマンスだ。TP-Linkでは低コストのWi-Fi 6対応のアクセスポイント(AP)や10Gスイッチ、基本機能を無料で利用できるSDNなど、中堅中小企業が挑戦しやすいソリューションを充実させている。

いまやDXは大手企業だけでなく、中堅中小企業にとっても欠かせない取り組みだ。しかし、実際のところDXの重要性は理解している、費用が高く二の足を踏んでいるケースも見受けられる。

「多くの中堅中小企業ではこれまでも様々なソリューションを導入しており、これ以上の負担は難しいのが本音ではないでしょうか」。ティーピーリンクジャパン ISPマネージャーの梶月吉晃氏はこう指摘する。

コロナ禍でリモートワーク体制を整えるため、Web会議システムやリモートアクセスVPN、クラウド移行などの費用が積み重なった。これらを支える土台やDXへの布石として、高速な無線LAN環境などネットワークインフラへの投資が必要だと理解している、できるだけ費用は抑えたい。こうしたニーズに応え、中堅中小企業からの引き合いが増えているのがTP-Linkのネット

ワークソリューションである。

手軽さと安全性を両立 検証“済み”技術を実装

TP-Linkは1996年に設立されたネットワーク機器プロバイダー。米IDCの調査では、2011年に無線LAN機器で世界シェアNo.1を獲得。その後、10年連続でNo.1を達成し続けている。「日本法人は2015年に設立され、日本市場に合わせた仕様にする事で、設立時から売り上げは増え続けています」と梶月氏は話す。また、昨年からは無線LANビジネス推進連絡会(Wi-Biz)に参加しており、災害時に公衆無線LANを提供する統一SSID「00000JAPAN」に対応した製品も揃えている(利用にはコントローラーの「OC200」または「OC300」が必要)。

グローバルおよび日本市場で受け入れられている理由は、「手軽さ」と「安全性」を兼ね備えているから。例えば、



ティーピーリンクジャパン
ISP マネージャー
梶月吉晃氏

人手で行っていた作業の自動化をネットワークに導入する際には、PoCなどを通じた正確性の確認や、誤った結果を出したときの責任の所在の明確化など、様々な準備が必要となるため、それらの工数が大きな負担になる。「市場にはDXを謳い、最先端の技術をアピールしている製品は多いですが、その多くは必要とは限りません。当社ソリューションの特徴は最先端技術にこだわらず、標準化や検証が十分に完了した、広く使われている技術を採用していることです。ユーザーは検証の手間を省けるため、手軽に導入できます」

誤解が無いように述べておくと、TP-

Linkは最新技術の活用には意欲的だ。例えば最新規格であるWi-Fi 6に対応した、天井取り付け型の無線LAN APの「EAP660 HD」を提供しているほか、メッシュWi-Fiの「Deco X90」ではAIを搭載しており、端末ごとに自動で最適なバンドやチャネルを選択することで安定性や速度を向上させている。

これらの技術は多数のユースケースでその安定性が実証されているものであり、ユーザーが新規にソリューションを導入した後、検証にかかる工数やリスクを最低限に抑えられるようにしている。また、安全性の面ではルーターが最新の無線暗号化プロトコル「WPA3」に対応するなどの対策が講じられている。

さらに、TP-Linkでは設計から生産までの工程を自社工場で作成させている。「そのため、余計な中間コストを抑え、低価格化に成功しています」

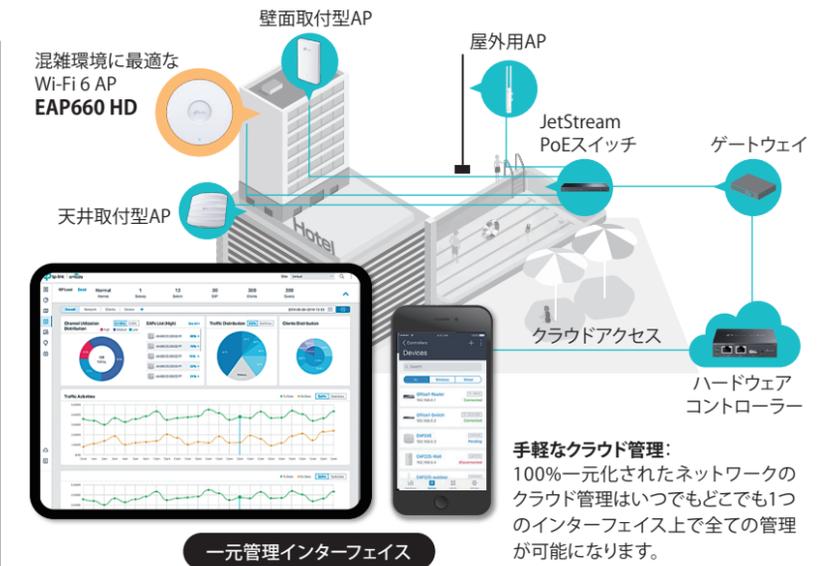
これらの取り組みから、他社製品と比べてコストを抑えることに成功しているのだ。

例えば、新製品のL2スイッチである「TL-SG3210XHP-M2」は、2.5Gbpsに対応したマルチギガビットのPoE+ポートを8つ搭載。10Gbps SFP+スロットも2つ備えており、理論値で9.6Gbpsまで高速化するWi-Fi 6を導入するためのインフラとして、十分信頼がおけるスペックだ。

ギガビットのPoE+ポートを48とSFPスロットを4つ備えた52ポートスイッチの「TL-SG3452P」、10GのSFP+を4スロットとギガビットPoE+ポートを24搭載した「TL-SG3428XMP」、PoE+ポートを24搭載した「TL-SG2428P」など幅広くラインナップする。

さらに小規模/ホームオフィスなどには、10Gポートを8つ搭載したアンマネージスイッチの「TL-SX1008」などを提供。また、ファン速度の自動調整によって低ノイズを実現しているため

図表 Omada SDNソリューションの構成イメージ



「大容量の映像を扱う企業における島HUBスイッチとしての用途などで引き合いを頂いています」

無料で使えるSDN コントローラーは5年保証

低価格どころか、無料で利用できるソリューションもある。TP-Linkでは、ネットワークをソフトウェアで制御するSDNソリューションとして「Omada(オマダ)」を提供している。これは複数拠点のスイッチやゲートウェイ、APを集中管理するためのWebプラットフォーム(図表)だ。

対応コントローラーを導入すれば利用可能で、基本機能はライセンス不要かつ無料で利用できる点特徴だ。「接続機器のステータスやトラフィック量、アラートなどの統計情報をダッシュボードから確認できるだけでなく、設定変更も可能です。機器を直接操作せず、バックヤードから複数拠点をクラウドで管理できるため、中堅中小企業や、運用を委託されているSIerにおいても人的リソースの削減につながります」と梶月氏は説明する。Webブラウザや専用のアプリを利用することで複数拠点のネットワークを一元的に管理することが可能になる。

対応コントローラーは小規模拠点向けに100台までネットワーク機器を管理できるOC200と、中規模拠点向けに500台まで管理できるOC300を用意し、5年保証付きなので安心して利用できる。

セキュリティにおいても、Omadaはユーザーデータを分離してネットワーク管理データだけを収集するので、情報漏洩やプライバシー対策も実現している。

このように初期投資や年間の管理費についての敷居を低く抑えられることで、「これまでDXに躊躇されていたユーザーに、TP-Link製品は大変喜ばれています」と梶月氏は胸を張る。

詳細な価格は、TP-Linkまたは全国にいるTP-Link製品を取り扱うSIerまで問い合わせしてほしい。DXは進めたいが、インフラの構築や運用にお金をかけたくない。多くの企業が抱える悩みに、TP-Linkはコストパフォーマンスの高い、包括的なネットワークソリューションの提供を通して応えてくれるだろう。

お問い合わせ先

ティーピーリンクジャパン株式会社
TEL : 03-6806-0912
E-mail : sales.jp@tp-link.com
URL : https://www.tp-link.com/jp/

